

NEC Cloud System ポータル インストール手順 お知らせ機能

第4.1.0版
2017年08月
日本電気株式会社

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- ・ LINUXは、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hat、Red Hat Enterprise Linuxは米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。
- ・ OpenStackは、OpenStack Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Elasticsearch, Logstash, Kibana は、Elasticsearch BVの米国およびその他の国における登録 商標または商標です。
- ・ Drupalの名称およびそのロゴは、Drupal Associationが所有する登録商標または商標です。
- ・ Cloudifyは、GigaSpaces Technologiesの登録商標または商標です。
- ・ Google ChromeはGoogle Inc. が所有する商標または登録商標です。
- ・ Mozilla、Firefoxの名称およびそのロゴは、米国Mozilla Foundationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他、本書に記載されているソフトウェア製品およびハードウェア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、本書内では、®、TM、©の記号は省略しています。

はじめに

概要

本書は、NEC Cloud System ポータル(NECCSPortal-dashboard)構築済み環境を対象に、お知らせ機能をインストールする手順について記載したものである。
お知らせ機能は大別して、下表に示した 要素から構成される。
それぞれのインストール手順について、補足に示した内容を、本書に掲載する。

番号	名称	補足
1	announces-dashboard	Horizon拡張。NECCSPortal-dashboard が構築済みであることを前提。 本書にインストール手順を掲載する。
2	Drupal	Apache 上に構築する OSS。 Ansible による構築については、別紙参照。 本書では、Ansible での構築後に必要な作業をインストール手順として掲載する。

提供資料

本書で使用する資料を下表にまとめる。

番号	名称	補足
1	announces-dashboard.git.tar.gz	announces-dashboard を構築する資料。作業手順(1-1)で使用する。 ※構成管理サーバより .tar.gz でダウンロードした資料。
2	ansible.git.tar.gz	Ansible プレイブック資料。作業手順(2-1)で使用する。 ※構成管理サーバより .tar.gz でダウンロードした資料。

以上

目次

作業手順 (1-1) … Ansible を用いて Drupal (Apache + Drupal) を構築する手順。Ansible サーバでの作業。

1. Ansible プレイブック構成ファイル の配置 と環境に合わせた編集
2. biz_db もしくは global.biz_db 上に、drupal データベースを作成
3. known_hosts への追加
4. Ansibleプレイブックの実行

Ansibleプレイブック構成ファイル

作業手順 (2-1) … Drupal の 初期構築手順。データベースが共有されている 冗長化構成であれば、片系での作業。

1. Druaplインストーラーを起動
2. 言語選択
3. サイト情報設定

作業手順 (2-2) … 冗長構成の場合の残系での、データベース設定の有効化の作業。

1. drupal の 接続先DB設定の変更
2. 設定を反映するため、httpdを再起動

作業手順 (2-3) … Drupal の ログ出力設定の変更手順。とログローテート設定の作業手順。すべての Drupal サーバでの作業。

1. モジュールの有効・無効の設定を変更する
 モジュール「Database logging」を無効にする
 モジュール「Overlay」を無効にする
 モジュール「Syslog」を有効にする
2. ログの出力先を設定する。
3. rsyslogの設定を変更する
4. ログが出力されていることを確認する
5. ログローテーションを設定する。
6. ログローテーションの実行結果をテストする。

作業手順 (2-4) … Drupal の セッション期限設定変更手順。また、Drupal との HTTP 通信を拒否するよう、Apache の設定を変更する手順。すべての Drupal サーバでの作業。

1. セッションの有効期限を設定する
2. HTTP通信を不可にする

作業手順 (2-5) … Drupal サーバのローカルタイムゾーンをUTCに変更する手順。すべての Drupal サーバでの作業。

1. タイムゾーンをUTCに変更する

作業手順 (3-1) … Drushダウンロード手順。すべての Drupal サーバでの作業。

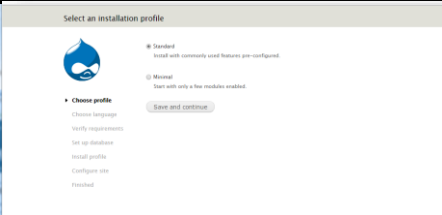
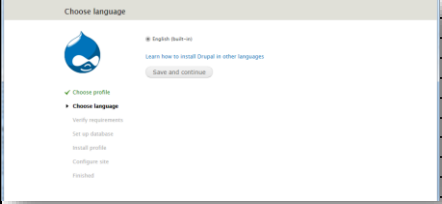
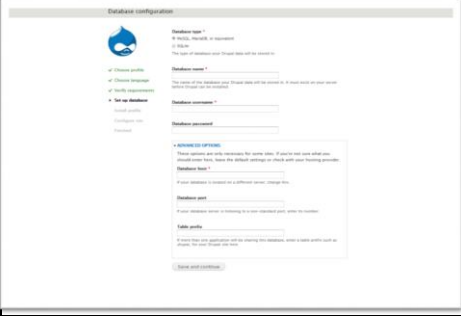
1. mariadbインストール
2. Drushをダウンロードする
3. ダウンロードしたファイルを解凍する
4. 解凍したファイルを移動する
5. 実行権限を付与する
6. パスを通す
7. ヘルプを確認する




以上

◆作業手順

項番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1	Ansible プレイブック構成ファイル の配置 と 環境に合わせた編集		<p>Ansibleサーバに、提供資料の Ansible プレイブックを配置する。</p> <p>以下からdrupal-7.56.tar.gzをダウンロードする。 https://www.drupal.org/project/drupal/releases/7.56</p> <p>以下のディレクトリに、ダウンロードしてきたパッケージを配置する。 <配置したAnsibleプレイブック>%files</p> <p>settings.php.j2を取得する。</p> <p>wget https://raw.githubusercontent.com/jimi-c/ansible_cloudformation_example/master/templates/settings.php.j2</p> <p>settings.php.j2に変更を加える</p> <p>219行 変更前</p> <div><pre>'username' => ['db_user'], 'password' => ['db_password'], 'host' => ['hostvars['localhost'].cf.info.stack_outputs.DBEndpoint],</pre></div> <p>変更後</p> <div><pre>'username' => ['drupal_db_username'], 'password' => ['drupal_db_password'], 'host' => ['drupal_db_server_ip'],</pre></div> <p>224行目 追加 {% endif %}</p> <p>505行目 追加 \$conf['404_fast_paths_exclude'] = '/%/(?styles)%/';</p> <p>567行目追加</p> <div><pre>/** * Theme debugging: * * When debugging is enabled: * - The markup of each template is surrounded by HTML comments that contain * theming information, such as template file name suggestions. * - Note that this debugging markup will cause automated tests that directly * check rendered HTML to fail. * * For more information about debugging theme templates, see * https://www.drupal.org/node/223440#theme-debug. * * Not recommended in production environments. * * Remove the leading hash sign to enable. */ # \$conf['theme_debug'] = TRUE; \$conf['x_frame_options'] = 'ALLOW-FROM ['portal fqdn]';</pre></div> <p>変更したsettings.php.j2を配置する <配置したAnsibleプレイブック>%roles%drupal%templates%</p> <p>【Ansibleプレイブック構成ファイル】を参考に、 環境に合わせて修正を実施する。</p>	
2	known_hosts への追加		<p>構築先サーバの finger print を Ansible サーバの実行ユーザの known_hosts に追加しておく必要がある。 構築先サーバへ ssh 接続し、known_hosts への追加を行う。</p>	
3	Ansibleプレイブックの実行		<p>Ansible サーバに資料を配置した環境で以下コマンドを実行する。 ※global 領域、region 領域で 構築する対象物が異なるものではない。</p> <p>※global 領域への 構築の場合： # ansible-playbook global.cms.serv.yml -i global.cms.serv -i inventory/oss/hosts -k -vvv</p> <p>※region 領域への 構築の場合： # ansible-playbook region.cms.serv.yml -i region.cms.serv -i inventory/oss/hosts -k -vvv</p> <p>※接続する ユーザのパスワードをプロンプト入力すること。</p>	

◆作業手順

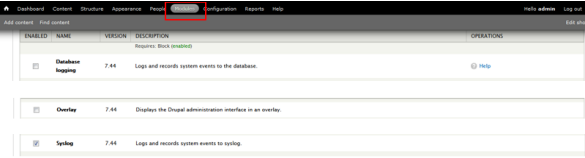
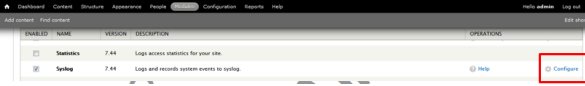
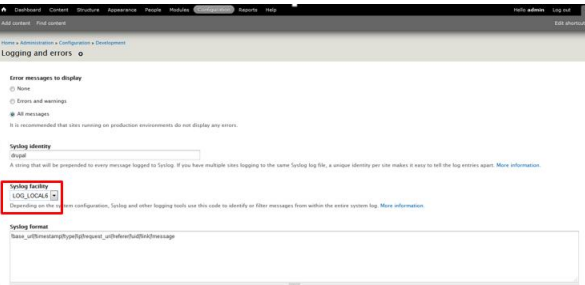
項番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			※以下の手順は、下記の場合での手順。 データベースを共用しているDrupalサーバを複数台で構成する場合、 そのうちの一つで実施する作業手順	
1.	Drupalインストーラーを起動		ブラウザからインストールするマシンのDrupalへアクセスする。 <code>https://<IPAddress>/html/drupal/install.php</code> Standardを選択して、ボタン「Save and continue」をクリックする。	
				
2.	言語選択		Englishを選択して、ボタン「Save and continue」をクリックする。	
				
			DB情報を入力する。 Database name:drupal Database username:drupal Database password:xxxxxx Database host:《DBサーバのIPアドレス》	
				
3.	サイト情報設定		サイト情報を入力する。 Site e-mail address:admin@example.com E-mail address:admin@example.com Username:admin Password:xxxxxx ボタン「Save and continue」をクリックする。	

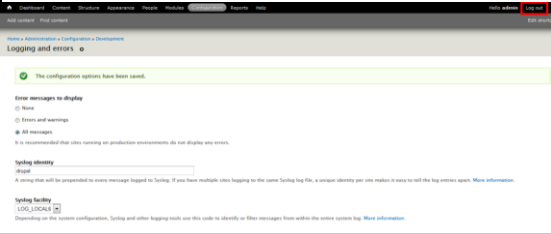
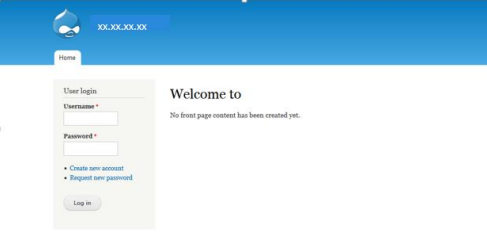
項番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			<div><div><div><div><div></div><div><ul style="list-style-type: none">✓ Choose profile✓ Choose language✓ Verify requirements✓ Set up database✓ Install profile• Configure site</div></div><div><div>Site information</div><div><div>Site name *</div><div></div></div><div><div>Site e-mail address *</div><div>Account e-mails, such as registration information, will be sent from this address. The e-mail address must be a valid e-mail address to help prevent abuse or spam from being directed at you.</div></div><div><div>Site maintenance account</div><div><div>Username *</div><div></div></div><div><div>Passsword *</div><div>Passsword strength</div></div><div><div>Confirm password *</div><div></div></div></div><div><div>Server settings</div><div><div>Default country</div><div>None</div></div><div><div>Default time zone</div><div>Asia/Tokyo, Tuesday, July 15, 2014, 14:21:0000</div></div><div><div>Update notifications</div><div><div>Check for updates automatically</div><div>Check for updates manually</div></div><div><div>The system will notify you when updates and important security releases are available. For available compatibility, check the information about your site's core in Drupal.org.</div></div></div></div><div><div>Save and continue</div></div></div></div></div></div>	
			<div><div><div><div><div></div><div><ul style="list-style-type: none">✓ Choose profile✓ Choose language✓ Verify requirements✓ Set up database✓ Install profile✓ Configure site✓ Finished</div></div><div><div>Drupal installation complete</div><div><div>Congratulations, you installed Drupal!</div><div>Visit your new site.</div></div></div></div></div></div>	
			リンク「Visit your new site.」をクリックして、トップページにアクセスする。	
			<div><div><div><div><div></div><div><div>Home</div></div></div><div><div><div><div><div>Use login</div><div>Username *</div><div></div></div><div><div>Password *</div><div></div></div><div><div>Forgot your account</div><div>Forgot your password</div></div></div><div><div>Login</div></div></div><div><div>Welcome to</div><div>No front page content has been created yet.</div></div></div></div></div></div>	

◆作業手順

項番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
			※以下の手順は、下記の場合での手順 データベースを共用しているDrupalサーバを複数台で構成する場合に、 作業手順(3-1)を実施した Drupalサーバ以外での作業手順	
1	drupal の 接続先DB設定の変更		Drupalサーバの設定ファイルのバックアップを、下記コマンドで採取する。 # cp -p /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php ¥ /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php.bku データベース設定を有効化するため、赤で示した行を削除する。 # vi /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php 編集前) ※削除対象文字を 赤色 で示す。 ※Ansibleによって記載が変わっている文字を 青色 で示す。 215 /* YOU HAVE TO UNCOMMENT OUT THIS SETTING */ /* 216 \$databases = array (217 'default' => 218 array (219 'default' => 220 array (221 'database' => 'drupal', 222 'username' => '[i] drupal_db.username [j]', 223 'password' => '[i] drupal_db.password [j]', 224 'host' => '[i] drupal_db.server_ip [j]', 225 'port' => ", 226 'driver' => 'mysql', 227 'prefix' => ", 228), 229), 230); 231 */	
2	httpチェックの無効化		Drupalサーバの設定ファイルを編集する。 # chmod 644 /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php # vi /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php 以下の記述を追加 \$conf['drupal.http.request_fails'] = FALSE; # chmod 444 /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php 注意: サーバが複数台構成の場合、全てのサーバで行う必要がある(3も同様)。	
3	設定を反映するため、httpdを再起動		httpd を再起動し、設定を反映する。 # systemctl restart httpd	

◆作業手順

項番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1.	モジュールの有効・無効の設定を変更する。 モジュール「Database logging」を無効にする モジュール「Overlay」を無効にする モジュール「Syslog」を有効にする		メニューにある「Modules」をクリックする。 モジュール「Database logging」のENABLEDからチェックを外す。 モジュール「Overlay」のENABLEDからチェックを外す。 モジュール「Syslog」のENABLEDにチェックする。 ボタン「Save configuration」をクリックする。 	
2.	ログの出力先を設定する。		モジュール「Syslog」のリンク「Configure」をクリックする。  Syslog facilityを「LOCAL6」に設定して、ボタン「Save configuration」をクリックする。 	
3.	rsyslogの設定を変更する		<pre>/etc/rsyslog.confを編集して、以下の設定を追加する。 # vi /etc/rsyslog.conf # Save Drupal messages to drupal.log local6.* /var/log/drupal/drupal.log # Save news errors of level crit and higher in a special file. &udp,news,crit /var/log/spooler # Save Drupal messages to drupal.log local6.* /var/log/drupal/drupal.log # Save boot messages also to boot.log local7.* /var/log/boot.log</pre> 以下のコマンドを実行して、rsyslogを再起動する。 # systemctl restart rsyslog	

順番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
4.	ログが出力されていることを確認する		<p>メニューにある「Log out」をクリックする。</p> 	
			<p>Username と Password を入力して、ログインをする。</p> <p>Username: admin Password: xxxxxxx</p> 	
			<p>ログが出力されていることを確認する。</p> <pre># view /var/log/drupal/drupal.log</pre>	
			<p>権限を変更する。</p> <pre># chmod a+rw /var/log/drupal # chmod a+rw /var/log/drupal/drupal.log</pre>	
5.	ログローテーションを設定する。		<p>syslogファイルを編集する。</p> <pre># vi /etc/logrotate.d/drupal /var/log/drupal/drupal.log { su root root daily rotate 31 copytruncate compress delaycompress missingok }</pre> <p>httpdファイルを編集する。</p> <pre># vi /etc/logrotate.d/httpd /var/log/httpd/*log { su root root daily rotate 31 missingok notifempty sharedscripts compress delaycompress postrotate /bin/systemctl reload httpd.service > /dev/null 2>/dev/null true endscrip</pre>	
6.	ログローテーションの実行結果をテストする。		<pre><syslog> # logrotate -d /etc/logrotate.d/syslog 出力例) not running postrotate script, since no logs were rotated</pre> <pre><httpd> # logrotate -d /etc/logrotate.d/httpd 出力例) not running postrotate script, since no logs were rotated</pre>	

◆作業手順

順番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1	セッションの有効期限を設定する		現状の設定を確認する。 # cat /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php grep session.cookie_lifetime 出力例) ini_set('session.cookie_lifetime', 2000000); 変更する。 # vi /var/www/html/drupal/sites/default/settings.php 変更例 ini_set('session.cookie_lifetime', 0);	“0” は ブラウザを閉じるまで有効
2	HTTP通信を不可にする		現状の設定を確認する。 # cat /etc/httpd/conf/httpd.conf grep -n Listen 出力例) 34# Listen: Allows you to bind Apache to specific IP addresses and/or 38# Change this to Listen on specific IP addresses as shown below to 41#Listen 12.34.56.78:80 42Listen 80 バックアップを取る。 # cp -p /etc/httpd/conf/httpd.conf /etc/httpd/conf/httpd.conf.org http (80) ポートを閉じる設定に変更する。 # sed -i -e "/Listen 80/s/ /#g" /etc/httpd/conf/httpd.conf 変更を確認する。 # diff /etc/httpd/conf/httpd.conf.org /etc/httpd/conf/httpd.conf 出力例) 42c42 < Listen 80 --- > #Listen 80 httpd を再起動する。 # systemctl restart httpd http アクセスが拒否されることを確認する。 # curl -I -XGET http://localhost/drupal 出力例) curl: (7) Failed connect to localhost:80; 接続を拒否されました https アクセスが許容されることを確認する。 # curl -I -XGET https://localhost/drupal --insecure 出力例) HTTP/1.1 301 Moved Permanently Date: Fri, 19 Aug 2016 08:07:44 GMT Server: Apache/2.4.6 (Red Hat Enterprise Linux) OpenSSL/1.0.1e-fips PHP/5.4.16 Location: https://localhost/drupal/ Content-Length: 233 Content-Type: text/html; charset=iso-8859-1	

順番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1	mysqlインストール		drush が mysqldumpコマンドを使用するため、mysqlをインストールする。 # yum install -y mysql	MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-client.rpm MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-common.rpm MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-shared.rpm MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-client.rpm
2	Drushをダウンロードする		下記サイトからダウンロード後、Drupalサーバに配置する。 https://github.com/drush-ops/drush/archive/6.7.0.zip ※必要に応じて tar.gz 形式に再圧縮して下さい。 http://pear.php.net/package/Console_Table/download/1.1.5 から、Console_Table-1.1.5.tgz をダウンロードしてください。 ※必要に応じて tar.gz 形式に再圧縮して下さい。	
3	ダウンロードしたファイルを解凍する		順番4でダウンロードしたファイルを解凍する。 # tar xvfz drush-6.7.0.tar.gz # tar xvfz Console_Table-1.1.5.tar.gz	
4	解凍したファイルを移動する		順番5で解凍したファイルを移動する。 # mv drush-6.7.0 /usr/share/ # mv Console_Table-1.1.5/Console_Table-1.1.5 /usr/share/drush-6.7.0/lib/	
5	実行権限を付与する		Drushの実行権限を付与する。 # chmod a+x /usr/share/drush-6.7.0/drush	
6	パスを通す		Drushのパスを通す。 # ln -s /usr/share/drush-6.7.0/drush /usr/local/bin/drush	
7	ヘルプを確認する		Drushを実行し、ヘルプが表示されることを確認する。 # drush --help	

順番	作業項目	対象ノード	作業内容	備考
1	mysqlインストール		drush が mysqldumpコマンドを使用するため、mysqlをインストールする。 # yum install -y mysql	MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-client.rpm MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-common.rpm MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-shared.rpm MariaDB-5.5.49-centos7-x86_64-client.rpm
2	Drushをダウンロードする		下記サイトからダウンロード後、Drupalサーバに配置する。 https://github.com/drush-ops/drush/archive/6.7.0.zip ※必要に応じて tar.gz 形式に再圧縮して下さい。 http://pear.php.net/package/Console_Table/download/1.1.5 から、Console_Table-1.1.5.tgz をダウンロードしてください。 ※必要に応じて tar.gz 形式に再圧縮して下さい。	
3	ダウンロードしたファイルを解凍する		順番4でダウンロードしたファイルを解凍する。 # tar xvfz drush-6.7.0.tar.gz # tar xvfz Console_Table-1.1.5.tar.gz	
4	解凍したファイルを移動する		順番5で解凍したファイルを移動する。 # mv drush-6.7.0 /usr/share/ # mv Console_Table-1.1.5/Console_Table-1.1.5 /usr/share/drush-6.7.0/lib/	
5	実行権限を付与する		Drushの実行権限を付与する。 # chmod a+x /usr/share/drush-6.7.0/drush	
6	パスを通す		Drushのパスを通す。 # ln -s /usr/share/drush-6.7.0/drush /usr/local/bin/drush	
7	ヘルプを確認する		Drushを実行し、ヘルプが表示されることを確認する。 # drush --help	